



中津市長

奥塚正典



新年

賀

謹



中津市議会議員

山影智一



明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より市政へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

二期目の市政運営では、より一層現場主義の視点に立ち、中津市の「安心・元氣・未来づくり」に努めます。

まず、防災については、「自助・共助・公助」の取り組みを推進させ、「防災意識」の醸成・「防災体制」の強化を図ります。また、大規模災害等に備え、新たに「国土強靱化地域計画」を策定し、災害から住民の生命・財産を守り、迅速な復旧・復興を可能とする、強くしなやかな地域づくりを進めます。

子育ての分野では、「みんなが子育てしたくなるまちづくり」をより一層進め、誰もが産み、育てやすい環境づくりに努めます。引き続き、きめ細やかな相談対応やニーズ把握により、切れ目・隙間のない支援とサポート体制の強化に力を入れてまいります。

福祉や医療の分野では、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができるよう医療と介護の連携を進めるとともに、「元氣いきいき週一体操教室」や「サロン

活動」など、引き続き高齢者の健康づくり、生きがいづくりの場を広げていきます。

さらに、昨年は「学びたい教育のまち中津」の拠点となる「新中津市学校」と「中津市歴史博物館（なかはく）」が開館し、あらゆる年代、様々な分野での学びや活動の場を創出しました。今後も子どもたちの「知（確かな学力）」「徳（豊かな心）」「体（健やかな健康）」をバランスよく育み、新たな時代を担う人材育成に力を入れてまいります。

今、中津市でも全国と同様に、少子高齢化、人口減少が進みつつあります。その減少幅を最小限に抑えながら、その中でも市民の皆様がいかに豊かに暮らせるかを追求し、中津市が県北地域の拠点都市として、市外・県外からも人や企業を惹きつける「磁力」を持ったまちとなるよう、施策の展開と深化を図ります。市政運営の基軸である「なかつ安心・元氣・未来プラン2017」を着実に推進し、「暮らし満足ナンバー1」をめざし、「住みたい・帰りたい・行ってみたいまち」中津市の実現に全力を尽くします。

結びに、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、新時代「令和」初の新春を、晴れやかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また日頃から中津市議会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年4月の改選で、2名減の24名の議員で新生中津市議会がスタートしました。5月に「チーム政策議会」、「開かれた議会」、「夢を創る議会」と所信表明し、第53代議長に就任しました。議員一人ひとりが、皆様の想いの代弁者として、議会で十二分に討議できるよう努めつつ、多くの皆様のご理解とご協力をいただいて議会運営がなされていきます。心から感謝を申し上げます。

6月議会では、滋賀県の痛ましい交差点事故等を踏まえ自由討議を行い、全議員総意のもと「通学路等の安全確保について」の要望書をまとめ、奥塚市長に更なる対策を強く要請しました。引き続き、交通安全・防犯関連事業の進捗をチェックしてまいります。

議会運営委員会では、平成28年に制定した「中津市議会基本条例」の趣旨に基づき、PDCAサイクルを回しながら議会改革を進めています。広報広聴委員会では、10月にパパ・ママ世代、PTA、青年経営者・労働団体リーダーの皆様と一緒に、全議員

参加のもとワークショップを開催しました。テーマを「市政、議会に期待すること」とし、多くのご意見をいただき取りまとめ、議会で議論を進めています。総務企画消防、教育産業建設、厚生環境の3常任委員会でも、関係団体・関係者との意見交換会を積極的に開催し、中津市政に反映すべく活動しています。

過疎、少子、高齢、国際化の進展、産業振興、人手不足、ひとつづつ、人生100年時代を見据えた全世代型社会保障改革、そして激甚化する自然災害への対応など、私たちの課題はたくさんあります。これらの課題解決に向け、ビッグデータ、AI（人工知能）、IoTなど、最先端技術を駆使し、Society 5.0（超スマート社会）やSDGs（持続可能な開発目標）の実現をしながらはなりません。

皆様と一緒に持続発展可能な社会、まちづくりを推し進め、私たちの子や孫に明るく豊かな中津市を引き継いでまいります。本年は、オリンピック・パラリンピックの年です。新時代への躍動感がみなぎっています。新元号「令和」の英訳は、「ビュティフル・ハーモニー」。新しい年が、皆様にとりまして、笑顔で素晴らしい年になりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。